

(上段)

「西国巡礼略打道中記」

舞鶴市所蔵

糸井文庫書籍閲覧システムからダウンロード

元伊勢外宮・元伊勢内宮・天岩戸の部分を抜粋

「下段は、上段の文字を
活字にしたものです。」



吉田屋正六

西国順礼略打道中記 下巻

文政三年（一八二〇）

● 卯酉 うし **やど屋小休所**

此所がまづめずらしき所なり。此所ハ、

● 今ものしものあつ。又太神は御の
もと。はまをまきしれ。あゆ
まで。はあを。本しをト
あり。千しを。四十一年も
はあ。はあを。あふ。あふ
乃ちへ。今乃。ソを。ああり。外

▲ まづ本いせ

□ 御本社豊受皇太神宮

□ 御本社豊受皇太神宮

□ 本夫が四十けんあり

ちうじき

ちうじき

▲ はねんすをたづぬるに

人王廿二代ゆりやく天王の

今文政三年迄

凡千三百四十四年になるト申

太々神樂がある。きんざいより

さんけいが多し。

▲ 此御本社へ参るにハ、まづ此

かいどうの右てに小山がある。

そのふもとにハ、石どうろうト

とりいがある。是を見れば

村のうじ神トおもわれて、

人の心がつかぬ。しらぬ人ハ
うかうかとかいどうよりながめて
参らずにゆくなり。此所へ
ゆきたら心をつけて参るべし。

かうもりより
半ミチ

ちうじき

● 外宮村

きれいな

▲ やど屋小休所多し

此所がまづめずらしき所なり。此所ハ、
今のにせの国の両太神宮様の
もと、御ざなされし所ゆへ、
それで此所を本いせト申
なり。千三百四十年もまへニ、

此所二御ざなされし所に、それより
のちハ、今のにせの国なりト申

▲ まづ本いせ

外宮 とよけかうたいじんぐう

□ 御本社豊受皇太神宮

□ 同ぐるりに四十余社あり

□ 本夫が四十けんあり

▲ 此ねんすをたづぬるに

● 人王廿二代ゆりやく天王の

● ミかどのよより

● 今文政三年迄ニ

● 凡千三百四十四年になるト申

さて此所に毎年三月廿一日ニ

太々神樂がある。きんざいより

さんけいが多し。

▲ 此御本社へ参るにハ、まづ此

かいどうの右てに小山がある。

そのふもとにハ、石どうろうト

とりいがある。是を見れば

村のうじ神トおもわれて、

人の心がつかぬ。しらぬ人ハ

うかうかとかいどうよりながめて

参らずにゆくなり。此所へ

ゆきたら心をつけて参るべし。



● まず御本社へゆくかたち

● かいどうの右てにゆく道があり

八丁上る 山ハなるし

● 此所よりゆきぬけるト

● 本ミちへでる

● はいでんかたち

● 本社かたち

● ぐるりハ

● 四十余社かたち 八丁のぼり

● おはらい出所なり かたち

● 本道へ下り百十五だん

● 下向ニハ、右てへひろい石だんへ
 下る。此いしだんが、百十五
 だんを下るトむかうハかい道なり。
 ● さて此所のけんざきハ、いせの
 国トちがいて、けんざきの
 御ぐしがすへが二本で
 もとが一本なり。そのかたち
 ● いまのいせ八二本ある。



● はあすへで二本でもとが一本なり

● このわけはもと此所にいさせ候ゆへ
 この御ぐしがすへで二本ニわかる
 ト申なり。くわしくハ此所へ
 まいるとしれる。

ル
 セ

● 二またむら ● 小休やどもなし
 ちうじき

● 内宮村 ▲ 小休やど屋よし
 きれいな
 ● 比町長し

● 此町の中ほどに
 ● うぢはしあり

(立て札の図) けがれ道

- 長さ二三げんで
- 高さも二けんばかりなり
- はじ一間半斗
- きぼしつき
- 見れば小川の谷川であさい
- けがれの人此道へゆく





●けろじはしハ、むかしより
いまだにしにん、さんやの人、
そうじておとこ、女、子どもに
いたるまで、けがれふじやうの
もの、此はしをこへるト、たち
まちそのぎすいがある。それで
此そばに立札がありて、はしの
片わきから川へおりてゆく
ト、比所のやど屋のはなしニト
見れば、そばに立ふだがあり。
▲此町長し。●両かわやど屋
小休きれいな ●町より本社までかたち
うじはしより本社へ此町長し

- 此うじはしハ、むかしより
いまだにしにん、さんやの人、
そうじておとこ、女、子どもに
いたるまで、けがれふじやうの
もの、此はしをこへるト、たち
まちそのぎすいがある。それで
此そばに立札がありて、はしの
片わきから川へおりてゆく
ト、比所のやど屋のはなしニト
見れば、そばに立ふだがあり。
- ▲此町長し。 ●両かわやど屋
小休きれいな ●町より本社までかたち
- うじはしより本社へ此町長し
- 此町長し
- 内宮へ坂の口きれいな
- 此石だん三十七だん上る



● 此石だんニツめ
五十五だん上る

● 内宮本社かたち
はいでんかたち

是より下向ハ左リへゆく

● 八十余社かたち

内宮

□ 天照皇太神宮御本社

● 人王十二代すいにん天王のよより

● 今文政三年迄に

● 凡千九百七年二なるト申

● 此千九百年もあとまでハ、

此所にいさせ候所。それよりハ

のちニ今のいせの国へ

御うつりニ御ざ候ト申事

● 此所もけんざきハ

かくのごとし

すへで二本でもとが一本

なり。それで本いせトハ申

● さて此所にも毎年三月の

廿六日にハ▲太々神樂がある。

きんざいより多くさんけい

がありてにぎハしく候。

内宮
天照皇太神宮御本社
人王十二代すいにん天王のよより
今文政三年迄に
凡千九百七年二なるト申
此千九百年もあとまでハ、
此所にいさせ候所。それよりハ
のちニ今のいせの国へ
御うつりニ御ざ候ト申事
● 此所もけんざきハ
かくのごとし
すへで二本でもとが一本
なり。それで本いせトハ申
● さて此所にも毎年三月の
廿六日にハ▲太々神樂がある。
きんざいより多くさんけい
がありてにぎハしく候。



▲此山の高さ十八丁ありて
 その下に▲御本社があるなり
 右へゆくト、本道で六丁
 さきにてやい所の辻がある。
 それより道は一すじになる。尚又
 此とりいより左りへぬけてそれより
 三丁下りるト、▲あまの
 いわとさんがある。是ハいせ
 のあまとさんトハ大きなち
 がいなり。此所ハま事にま事に
 おそろしおそろしで中々に
 女ハゆかれず。おとこでもあ
 ぶない。此ミヤへ参るにハ、
 まづ御本社より大きな金の
 くさりがつけてありて、それを
 つかまへて山をのぼるなり。
 中々あぶない所なり。
 ▲此山の高さ十八丁ありて、
 その下に▲御本社があるなり。
 そのかたち

▲さて此所より左りをむくト本道
 で、とりいがある。そのとりいを
 右へゆくト、本道で六丁
 さきにてやい所の辻がある。
 それより道は一すじになる。尚又
 此とりいより左りへぬけてそれより
 三丁下りるト、▲あまの
 いわとさんがある。是ハいせ
 のあまとさんトハ大きなち
 がいなり。此所ハま事にま事に
 おそろしおそろしで中々に
 女ハゆかれず。おとこでもあ
 ぶない。此ミヤへ参るにハ、
 まづ御本社より大きな金の
 くさりがつけてありて、それを
 つかまへて山をのぼるなり。
 中々あぶない所なり。
 ▲此山の高さ十八丁ありて、
 その下に▲御本社があるなり。
 そのかたち

本ミチ

右本道
 左いわと

●三丁乃間ハ中々此下りハ大なん所

此山高さ十八丁あり

●此まへにいわとさんあり



り
七丁也

□天照太神宮天乃岩戸社ハ
 人王廿二代のうぶゆ天王のよより
 今文政三年迄ニ
 凡千三百四十四年ニなるト申
 是ハ此所ニかぐら堂がありて、又
 その所ニすゝの徳くりニ御酒ト
 あらひ米がかわらけニいれて又
 かわらけのさかずきがだして
 ありて、心まかせに御神（酒）を
 いただくなり。本社より三丁を
 下りて此所へゆくト、かんぬしが
 一人此所にて申事は、是ハ
 よく御さんけいをなされました。
 此所ハ天照太神宮の此山の
 十八丁そらに御ざなされし所ニ、
 千三百年もまへの事ニござれ、
 此所へあまくだりなされた所でご
 ざる。是ハ御神酒でござるから、
 心もちで御いただきなされと申て、

- 鳥井より三丁下りてかくら所
- いわ戸のかたち
- 下向ニ此道上る

此間ハ谷川

- 十八丁のふもとにあり
- かねのくさりつかまへてゆく
本社かたち
いわり
- 太神宮のうぶゆのたらい

□天照太神宮天の岩戸社ハ

- 人王廿二代ゆりやく天王のよより
- 今文政三年迄ニ

● 凡千三百四十四年ニなるト申

是ハ此所ニかぐら堂がありて、又
 その所ニすゝの徳くりニ御酒ト
 あらひ米がかわらけニいれて又
 かわらけのさかずきがだして
 ありて、心まかせに御神（酒）を
 いただくなり。本社より三丁を
 下りて此所へゆくト、かんぬしが
 一人此所にて申事は、是ハ
 よく御さんけいをなされました。
 此所ハ天照太神宮の此山の
 十八丁そらに御ざなされし所ニ、
 千三百年もまへの事ニござれ、
 此所へあまくだりなされた所でご
 ざる。是ハ御神酒でござるから、
 心もちで御いただきなされと申て、

丈夫由きなつし。丈夫女があ
れ。男より御はいをなされ
あぶないト申なり。それより男ハ
すぐにくさりをつかまへて、
御本社へまいるなり。ま事に
此所へ参るのハおとこでもあぶない。
大一此玉がきより下を見れば、谷川
の水のおとがえろうて、その上
水のおとで物いう事もきこ
へず。さてしもさてしも、おそろしき
所なり。▲さてかんぬしが申事二ハ、
おまへがた、御はいがすみま
したらバ、▲此所より左ての下をバ
ごろうじませ。太神宮の
生れなされしときのおぶ
ゆをなされたいわのたらいが
ごさる。是ハむかしより今だに
中の水が毎日毎日のしほの
さし引がござりますト申候。
それより左りの谷を見れば、たらいが
あるなり。

あつし
七十五

あつし山をば見れば外のなミ木ハ
なし。まづしんざんで山ハ
いづれもまつの木ト又ハ
ひの木トまきの木ト杉ト
もミの木より外の木ハなし。
ま事にすごい神山なり。
うそなれバ参りたるト人にたづ
ぬるべし。尚又此両太神宮
のぐるりに八十余社、四十
余社のまへに、子供がたく
さんにいる。此子供がぜにを、
大ぜいよりて、
一文くだんせト申て、やかましく
申。それより一文ほりてやるト、
なにやうつぶやきて此余社ぐ
るりを一はしりにゆきて
ぐるりの口より小ミやをまわる。
是ハなげにト申せバ、参りたる
人の代ごふりトある。

それよりねぎがつく。それより女があれ
バ、是から御はいをなされ
あぶないト申なり。それより男ハ
すぐにくさりをつかまへて、
御本社へまいるなり。ま事に
此所へ参るのハおとこでもあぶない。
大一此玉がきより下を見れば、谷川
の水のおとがえろうて、その上
水のおとで物いう事もきこ
へず。さてしもさてしも、おそろしき
所なり。▲さてかんぬしが申事二ハ、
おまへがた、御はいがすみま
したらバ、▲此所より左ての下をバ
ごろうじませ。太神宮の
生れなされしときのおぶ
ゆをなされたいわのたらいが
ごさる。是ハむかしより今だに
中の水が毎日毎日のしほの
さし引がござりますト申候。
それより左りの谷を見れば、たらいが
あるなり。